

4. 特発性間質性肺炎慢性型BAL中T細胞のcytokine産生能によるsingle cell levelでの検討

(内科学第一) 國澤 晃, 田胡 秀和, 春日 郁馬,
大屋敷 一馬

近年, 特発性間質性肺炎 (IIP) の慢性型の病態形成にサイトカインが大きくかかわっていることを示唆する報告がなされてきている. 我々はflow-cytometryを用いてIIP慢性型のBALリンパ球のサイトカイン産生能を検討した. 対象はBALを施行したIIP慢性型5名, 健常例5名である. Jungらの方法に準じBALF中リンパ球の表面抗原と細胞内サイトカイン (IFN- γ , IL-2, IL-4, IL-5) を免疫染色しflow-cytometryを用いて測定した. CD4T+細胞でIFN- γ 産生能を持つものはIIP慢性型で健常例に比べ有意に増加していた ($p < 0.001$). IL-2産生能を持つものも, IIP慢性型では健常例に比べ有意に増加していた ($p < 0.001$). IL-4ではIIP慢性型と健常例に比べ有意に増加していた ($p < 0.05$). IL-5はIIP慢性型と健常例の間に有意差は認められなかった ($p > 0.5$). IIP慢性型の肺末梢では潜在的IFN, IL-2およびIL-4産生能を持つCD4T+細胞の割合が健常例に比べ有意な増加を示した.

5 喘鳴を来した乳幼児の血清中ECP測定の有用性

(小児科) 長島千香子, 土田 尚, 柏木保代,
篠本雅人, 河島尚志, 武隈孝治, 星加明徳
乳児期に喘鳴 wheezing を来した患児 26名 (平均約8ヶ月) について血清中 eosinophil cationic protein (ECP) を測定した. ECPの平均 $19.8 \pm 13.7 \mu\text{g/l}$ であり, 末梢血好酸球数は $326.7 \pm 381.5/\mu\text{l}$, 対象18名のIgEは $41.9 \pm 66.8 \text{IU/ml}$ であった. ECPと末梢血好酸球数の間には, 有意な相関が認められた ($r=0.75$, $p < 0.0001$). 対象で鼻汁中 Respiratory Syncytial virus (RS ウイルス) 抗原を検索した18例のうち12例が陽性であり, そのECP平均と有意差は認められなかったが, RSウイルスは乳児喘息移行の一因と考えられた. 乳児喘鳴児の血清中ECPは有意に高値でありIgEの平均も高く, その後も喘鳴で受診することが多く, 将来気管支喘息移行する可能性が予測された. 今後の経過観察が重要と思われた.

6 多発関節炎にて発症したPOEMS症候群の一例

(内科学第三) 太原恒一郎, 湯川尚一郎,
坪井 紀興, 林 映,
阿部 治男, 殿塚 典彦,
林 徹

POEMS症候群は多発単神経炎, 内分泌徴候を伴うplasma cell dyscrasiaとされる. 今回我々は発熱・関節痛を主徴とし, 膠原病・感染症との鑑別に苦慮したPOEMS症候群を経験したので報告する.

【症例】42才男性【主訴】発熱・多関節痛 40才より関節痛が出現. 蛋白尿を指摘され, 糖負荷試験を行ったところ糖尿病と診断された. 同時に肝脾腫・表在腹部リンパ筋腫脹を認め精査したが確定診断には至らず. 42才より発熱を認め入院. 入院時軽度の四肢皮膚硬化と下肢腱反射の減弱を認めた. 筋力低下・知覚障害は認めなかったが, 神経伝達速度の減少より多発単神経炎と診断した. 発熱は持続し, 経過中, 腹膜刺激症状・胸腹水貯留が出現. 髄液蛋白及び血清VGEF増加を認め, POEMS症候群と診断した. 【考案】POEMS症候群は多発単神経炎で発症することが多いとされるが, 本症例は神経症状, M蛋白血症を欠く非定型例と考えられた.

7. 微小変化型ネフローゼ症候群における末梢血リンパ球のシクロスポリン感受性の検討

(東薬大・臨床薬理) 計良貴之, 平野俊彦, 岡希太郎,
(八王子・腎臓科) 伊保谷憲子, 吉田雅治,
(八王子・薬剤部) 明石貴雄

【目的】シクロスポリン(CsA)は, 種々の疾患で使用されているが, 患者間で治療効果の差が大きく, 血中濃度以外にも有効かつ安全な使用基準が求められている. その一助として, 末梢血リンパ球を用いた薬剤感受性試験を行い, CsA感受性と治療効果との関係を検討した. 【方法】微小変化型ネフローゼ症候群(MCNS)患者14例を対象とし, 末梢血リンパ球のCsA感受性をマイトゲン試験法により測定した. 14例の患者をCsA感受性の平均値 (18.1ng/mL) で2群に分け, 尿中蛋白量の減少等の治療効果を検討した.

【結果】リンパ球のCsA感受性が低い患者は, 感受性の高い患者に比べてCsA療法に対する応答性が悪く, より長期間の治療が必要だった. 【考察】治療前に末梢血リンパ球のCsA感受性を測定することにより, MCNS患者におけるCsA療法の治療効果を予測できると考えられた.